

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ゆずりは
(ユニット名)	ひまわり(2階)
所在地 (県・市町村名)	静岡県浜松市中区早出町1355-6
記入者名 (管理者)	横道広美
記入日	平成 20 年 2 月 12 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の人と触れ合いながら、その人らしく生活して頂く為に、外出・散歩など(個々に合わせた)地域行事への参加などで、地域に溶け込むように勤めている。</p>	<p>個性を大切にしながら、今後も地域などの行事に参加していきたい</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>入社時に理念について、話をしてもらい、自分なりに理解している。年に1回は、に理念について考える勉強会を行い、理解を深めている。</p>	<p>新しい職員が増えた為、みなに浸透できるように、繰り返し行っていく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で、地域の自治会長・包括支援センター・民生委員に出席してもらい、認知症・ホームについて理解していただけるように働きかけている。 ご家族には入居時に、ゆっくり説明を行っている。</p>	<p>2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩の時など、外に出かけた時は、こちらから声をかけるように働きかけている。</p>	<p>地域の方が訪問された時は、気軽に見学していただいている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に入り、会費を納めたり、祭典時には寄付をしている。行事への参加の誘いがあつたときは、積極的に参加している。地域防災訓練への参加</p>	<p>地域の方から、誘いがあつたときは、積極的に参加している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	相談にこられた時は、快く対応している。 地域の中学生の職場体験を受け入れしている。	○	こちらから、積極的に 地域に向けアピールしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価することで、日々のケアの見直しが出来、今後の課題を抽出することができている。		できるだけ、職員全員での自己評価の継続(時間的に参加できない職員もいる)
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での様子を、細かく報告し、意見を聞いている。 自治会長も関わりについて、色々考えてくれている。		会議での報告は、細かく行っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に、市の相談員さんに、訪問していただき、直接入居者の声を聞いていただき、アドバイスを受けている。		相談員さんの訪問の継続。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修などに参加させてもらい、理解を深めている。		今後、勉強会などで、理解を深めていく。 現在必要とされる入居者はいない。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体だけではなく、何気ない言葉の中にも虐待が潜んでいる事を、充分理解し、勉強会などを行い、理解しケアに取り組んでいる。		勉強会や日々の業務内で、繰り返し 意見交換できるようにし、 虐待防止に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>契約時には、契約書など 口頭で説明し、理解・納得を得ている。</p> <p>契約時の、文章・口頭での説明の継続。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>苦情窓口を設置し、そのことを利用者家族に説明している面会時、気軽に意見などを言ってもらえるように、こちらから声をかけている。</p> <p>伝えられない入居者の方に関しては、表情や態度を見ながら、対応している。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>毎月、入居者の状況報告書を個々に作成し、個々のご家族に渡している。(施設での様子・健康状態・ケアプランについて)</p> <p>状況報告書の継続</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>苦情窓口を設け、ご家族に伝えている。苦情があったときは、すぐに話し合い、対応している。利用者は、かなりはっきりと自分の思いを言ってくれていますが、その都度、対応している。</p> <p>継続</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>特別、機会は設けていないが、管理者から、時々声をかけてもらい 話を聞いてもらっている。</p> <p>職員が、気軽に意見の言える雰囲気をつくってもらっている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>急な受診で、ご家族が一緒に行けない時などは、職員が対応している。入居者の急変・行事など、休みの職員も気持ちよく出てきてくれています。</p> <p>入居者が混乱しないように、なじみの職員が対応している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>ユニットごとで、職員が分かれている。新しい職員が入る時には、なじみの職員が必ずフォローに入る。</p> <p>職員の振り分けの継続。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修には、積極的に参加させてもらっている。新しい職員には、教育担当を付け、取り組んでいる。	○ 研修への積極的参加の継続。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度から、近くのグループホームさんとの交流を深めている (夏祭りへの参加・合同防災会議・合同忘年会)	交流を深め、お互いのよいところを、吸収できるようになった。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会などで、職場を離れ、楽しんでもらう場を設けている。 管理者は、職員の表情などを見て、声をかけてくれています。	気軽に悩みなどを相談できるよう、様子を聞いている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務表の作成時には、休みの希望をできるだけ聞いてくれている。研修の参加も積極的に参加させていただいている。	職員に応じて、責任のある仕事に就いたり、役割をくれ、場合によっては、指導や褒めがある。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面接に行き、利用者の様子を見たり、その後状況の変化が見られた場合、出来る限り、利用者の様子を見て話を聞いている。	入居前後の、不安の解消に努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面接に行き、利用者の様子を見たり、ご家族とじっくり話をしている。 入居後も、ご家族とはこまめに連絡を取っている。	ご家族の話や意見をよく聞き、日々のケアに反映させている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、必要なサービスがあり、対応できるようなら行っている。		相談が、あった場合は 快く対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時に、ご家族と話し合い、入居時期を決めている。		混乱しないように時期や、ユニットをご家族と話し合い決定している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と共に、日常生活の作業を行ったり、お花の生け方を教えてもらったり、折り紙やお裁縫を一緒に行ったりしている。		出来ることは、共に行き、以前できていたことなどは、利用者のアドバイスを含め、入居者と一緒に取り組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事がある時は、ご家族にも参加できる時は、参加していただき 利用者にとって、ご家族がとても大切であることを伝えるように努めている。		ここでの生活を、より多くのご家族に知ってもらい、関心を持ってもらえるように努力していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時に、ご家族等の情報をまとめ、職員が確認できるようにファイルに閉じてある。そして無理のない程度に面会に来て頂いている。		ご家族の不単位にならないように、電話の回数を減らせるように努めたり、面会にこられた時には、ゆっくり過ごして頂ける様努めている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所へドライブに出かけたり、友人・ご家族の面会は気軽に訪問していただいている。		なじみのある場所や、友人・ご家族の写真を見て話をしたり、親しんだりハビリや病院はそのまま継続していただいている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良く過ごされている利用者同士には、自由に過ごして頂いている職員は時折、その輪の中に入り、トラブル回避を含め、関係の把握をしながら話している。		他利用者と関わることが、うまく出来ない利用者に対しては、職員を通し、他利用者と関われるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去は、施設でターミナル後亡くなった方がほとんどですが、退去後も、施設を訪問して下さったり、相談されたりしている。		関係の継続。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に話を聞き、伝えることが出来ない場合は、ご家族に相談したり、情報をもらい検討している。		うまく伝えられない方は、様子を観察し見守り、無理に行動をおさえないように努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、経歴・家族・暮らし方などの情報を、ご家族に記入していただき、入居後も利用者本人から話しを聞き、把握に努めている。		ご家族から収集した情報はファイルし、職員がいつでも確認・把握できるようにしてある。そして、ゆっくりと話が出来る時間も持てるようにしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日日誌に記入し、申し送りを行っている。		日誌を書き、申し送りを行っている。特に重要なことについては、連絡ノートを活用し情報を伝えている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の状況を把握し、ご家族の意見を取り入れ、時によって主治医の意見を含めケアプランを作成している。		ご家族や、主治医との連絡を密にし、出来るだけ多くの情報集められる様に努め、ケアプラン作成し、支援していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間を、1週間～3ヶ月・6ヶ月とし、ケアプランの見直しを行っている。 利用者本人の、状況に追応じ、プランを変更している。		利用者の日常を、日誌等で把握し、より早く変化に対応できるように努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌を、パソコンに入力し 職員全員がいつでも確認できるようにしてある。 日誌を元にケアプランの見直しを行っている。		日誌の内容は、ケアプランにそって記入し、特変も記入してあるため、誰でも見直しができるようになっている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常に満床の為、ショートステイなどは行っていない		空き部屋があり、希望があれば対応して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんは、定期的に来て、施設の様子を把握してくれている消防・警察については、いつでも対応していただけるように、連絡をしている。 そばつくりボランティアの受け入れをしている。		継続
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業者と、関わり持ち連携している。		継続
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などで、話をしているが、現在必要な方はいない。		必要時には、すぐに対応できるようにしていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、今までかかっていた病院か、協力医院にするかは、利用者本人・ご家族に決めていただいている。		家族・本人の希望に添えるように支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>主治医やご家族から、話があれば専門病院を受診していたが、 ここ1年は希望がない。</p> <p>相談があれば、以前同様対応。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>医療連携体制の契約をしている病院の看護師が、24時間フォローしてくれている。</p> <p>協力体制の継続。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>入院時には、ご家族や病院との連絡をとり、早期退院できるように 職員間でも話し合いながらフォローしている。</p> <p>退院後、安心して生活ができるよう、連携体制の継続</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>入居者に、体調の変化があり、必要となった時、主治医・ご家族と時間を作り、方針を決めている。</p> <p>早い段階で、入居者・ご家族・主治医と話し合いを持ち、急変に備えて、話し合いをしていく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>終末期には、主治医・ご家族・施設職員にて、話し合い方針を決めている。</p> <p>継続</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>入居前後、支援者との連絡を密にし、施設での様子等の情報をご家族に渡し、住み替えによる混乱を防ぐようにしている。</p> <p>話だけではなく、文章にして情報提供し、環境の変化による混乱が少なくなるようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物は、個人情報保護に努めている。 個々の利用者に応じて、利用者本人のプライドを傷つけないようにしている。	継続
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いを伝えられる利用者には、出来る範囲で対応し、伝えられない利用者に関しては、表情や態度を見ながら対応している。	個々に合わせた対応の継続。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えのある利用者は、出来る範囲で対応している。話の中で、利用者本人がしたいことなどを聞いている。 伝えられない利用者に関しては、生活歴・表情などを見て対応している。	個々に合わせた対応の継続。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院を選ばない為、訴えがあつた時に、施設側で日時を調整し理容師に訪問してもらっている。化粧品などの訴えがあつた場合 利用者本人と職員が一緒に出かけ購入してくる。	ご家族や、利用者の希望に沿い対応している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	魚を食べられない方には、他の物に変更したり。 利用者本人の、食べる力に応じて、食事形態を変えている。	出来るかたには、食事に関わることを行っていただいている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医と相談の上、利用者本人の健康を害さない程度で自由にしていただいている。	体調を見ながら、利用者本人の好きなようにしていただく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居時から暫く、排泄状況の統計を取り、個々に誘導時間を決め対応している(その日の体調などを考慮したうえで)		失敗された場合は、利用者本人がはずかしい思いをしないように支援する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全介助の方は、利用者本人の反応を見ながら対応し、ある程度自立されている方は、利用者本人の訴えも含め、入浴して頂いている。		個別対応の継続
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない時は、職員が付き添い、様子を見守っている。		個々の状況に応じ、差し入れや添い寝をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々に、好きなこと・やれることで、食器拭きや洗濯物たたみモップがけ、掃き掃除などを行っていただいている。 日中、カラオケで好きな歌を歌ったり、行事の飾り物を作っていたりしている。		出来る事を、楽しみながら行えるように、声かけなどをして、気をつけている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人一人の出来ることに合わせている。 お金の管理は出来ないが、支払いは出来る利用者が2人いるので、その方達は、外出時、利用者本人の財布を渡し、支払いしていただいている(職員見守り)		出来る事を、そのまま継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候によって、買い物や散歩等、利用者本人の意向に沿って行っている。		個々の体調や、状況に応じて対応して行く。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に2回(春・秋)行楽を実施している。 ご家族にも参加してもらうように声をかけている。 ご家族と外出されることもあります。		継続

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者がいて、自由に使用していただいています。事務所の電話を使用している方もいます。一度かけたことを忘れ、再度電話をかけようとするときは、声をかけ 気分転換を図っています。		利用者の状況に応じ、出来限りの支援をしている。職員と一緒に郵便局に行き、はがきを購入し手紙を出される利用者もいます。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や友人が見えた時は、様子を見て、居室へ誘導したり、ゆっくり出来るよう、お茶やお菓子を出している。		いつでも気軽に訪問していただけるように工夫している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし、取り組んでいる。		身体拘束しないケアについて考え工夫している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、夜7:00～朝5:00の間は、防犯の為施錠している。 門扉は、前の道路の車の交通量が多いので、危険回避の為施錠している。		必要以上の鍵をかけないように取り組んでいる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	3時間ごとに安否確認を行い、利用者の所在・安全に心がけている 利用者が、落ち着きなく移動されている時は、利用者本人に気づかれないように、見守っている。		利用者本人の、行動や表情を見ながら、見守りを続けていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや爪切りなどは、個々の状態により許可している。		すべての物を取り上げないように努めている、必要時は、貸し出ししている。(確認)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットなどを活用し、再発の防止、勉強会などで検討している		安心して生活できるように、カンファレンスを行い、事故防止に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルがあり、職員がみんな把握しているが 定期的な実施訓練はしていない。	○	定期的な、実施訓練(すべての職員)をして行く
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練時には、何かあったらかけつけるよ！と言われている。地震発生時の相互協力の体制を整えている。(被災者住民への宿舎・食料・衣類の提供・・・運営推進会議で提案)		地域の住民との、積極的な関わりを増やす。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の様子を、お便りで伝えている。伝えたくて、ご家族に来ていただき、話し合う。		利用者の様子をお便りで伝え、変化を早くご家族に知らせ、話ができるようにしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りや、連絡ノートを使用しながら、情報がいきわたるように工夫をしている。		継続
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内服一覧表を用意し、いつでも見ることが出来るようにしているが、職員によっては理解できていない職員もいる。	○	必ず眼を通し、理解していくように努める
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んでもらっている。食事には、なるべく食物繊維を多く含むものを提供している。お腹のマッサージなどを行っていますが、便秘傾向の方が多。		日々の状態をよく観察し、対応を継続。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後の歯磨きの徹底をしている、出来ない方は、食後などお茶を多く摂取して頂き口腔内の清潔に努めている。		清潔を保てるように支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自分で飲めない入居者、介助して必ず水分等取れるようしている。 食事も個々に応じて食事形態をかえている。 (刻み、ミキサー) 湯のみも入居時に持ってきてもらっている。		栄養バランス・水分量などを支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種をしている。 マニュアルがあり、誰でも見れる場所においてある。 手洗い、消毒、換気、加湿を行っている。		対応が遅れないように、繰り返し勉強会を開く。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾類、まな板、包丁は、毎日使用後、ハイターにつけ消毒している。		食中毒の防止に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい看板を設置している。花壇に花を植え、やさしい雰囲気を出すようにしている。		花を絶やさないようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような壁飾りを入居者と一緒に作り壁に飾っている 湿温計を設置して快適に過ごせるようにしている。 汚れ等が残らないようにきれいにして		心地よい空間づくりに努める
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の障子を明け、出入りしやすいようにしている。 ソファも仲のよい入居者同士で座れる置き方にしている。		継続

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には、以前から使っていたものを、持ってきてもらえるように話をしているが、中には新しく買い替えてくる人がいる。		ご家族の話や、生活暦、利用者本人と話をし、花や絵を飾っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の時、居室の窓を開けてもらっている。 汚物は、ふた付きバケツに入れている。 消臭剤も使用している。		排便後など、臭いが強い時は、消臭剤などを使用し清潔に努めている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じて、いすの種類を変えたり、利用者本人が動き易い様、いすの足にカバーをつけている。 玄関・トイレ・浴槽の、手すり。浴槽内滑り止めマットを敷いている。		状態が変わっていく都度、創意工夫して対応して行く。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来ること、出来ないことシートを見て、職員が理解して、個々に合わせて対応している。		個々にあわせ、言葉かけの仕方を変え、混乱・失敗をしないように対応している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階に行けば、畑があり、1階の縁側に座って、お茶を飲みながら、花や作物を見て、楽しむ事が出来るようにしている。	○	ベランダの活用を考えて行きたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・個々のペースにあわせた、ゆったりとした生活を提供している。
- ・利用者はもとより、職員が穏やか。
- ・利用者個々の、個性を大事にしている。